

盲ろう者通訳・介助員 養成講座開講しました



6月30日(水)、令和3年度盲ろう者通訳・介助員養成講座の開講式及び第1・2回講座を実施しました。

盲ろう者は「光」「音」の取得に制限があり、情報の取得や移動時には「触れる」ことが不可欠です。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、やむを得ず中止となった本講座ですが、今年度はカリキュラムを再考し、開講することができました。



16名の受講生が22講座44時間をかけて盲ろう者概論やコミュニケーション方法等を学び、通訳・介助実習を行います。

講座は11月まで続き、修了後は宮城県盲ろう者通訳・介助員として登録し、活動していただきます。

初日は盲ろう者概論の講義と盲ろう疑似体験が行われました。受講生からは、「盲ろう者について知らないことばかりで驚いた」「身を以て盲ろう者の世界を体感できた。当事者はこれが24時間365日続くという講師の言葉にハッとした」「命を預かる覚悟や、気付く力が大切ということが分かった」という声が寄せられました。

「身を以て盲ろう者の世界を体感できた。当事者はこれが24時間365日続くという講師の言葉にハッとした」「命を預かる覚悟や、気付く力が大切ということが分かった」という声が寄せられました。



「命を預かる覚悟や、気付く力が大切ということが分かった」という声が寄せられました。

マイ・タイムラインって？ 東松島サロンで防災を考える

東松島サロンの今年1回目は「マイ・タイムラインを作ろう」をテーマに防災課の危機管理監を講師にお招きし、視覚障害者情報センターとのコラボサロンとして開催しました。

マイ・タイムライン(防災行動計画)とは、地域や自宅の形態、家族の状況などに合わせた自分仕様の備えをまとめ、時系列的に可視化したものです。いざという時に慌てないために、一人ひとりに合った備えを日ごろから考えておくことの大切さを再認識しました。



折って飛ばして楽しみました！ 交流サロン「紙ヒコーキ選手権」

7月7日にみみサポ研修室で2回目の交流サロンを開催しました。今回の企画は、それぞれ自分の好きな折り方で紙ヒコーキを作り、2回飛ばした距離を合計して競い合う「紙ヒコーキ選手権」。優勝者の記録は、14m81cm(2回の合計飛距離)でした。遠くまで滑空する紙ヒコーキの見事さに、思わず歓声が上がりました。



紙ヒコーキを作るのは子どものころ以来という参加者も多く、当時の思い出話を聞かせてくださる方も。たまには懐かしい遊びで、童心に帰って楽しむのもいいものですね。

